

令和6年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立杉並工科高等学校 学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(総務部主任兼務)=事務局長、総務部員2名 計3名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当)、主幹教諭(生活指導担当)、
主幹教諭(進路指導担当)、総務部主任 計7名
- (4) 協議委員の構成(氏名の掲載も可)
荻窪警察署(平山 恵)、荻窪消防署(戸引 信太郎)、杉並区立済美教育センター(加藤 則之)、
井草中学校長(田口 克敏)、井荻中学校長(長谷川 学)、法政大学教授(鳥飼 弘幸)、
三谷小学校長(入倉 勝)、PTA会長(間瀬 久美子)、同窓会長(高野 恵一) 計9名

2 令和6年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会(第1～3回)の開催日時、出席者、内容、その他

第1回 令和6年6月7日(金) 内部委員7名、協議委員7名

協議委員委嘱、委員紹介、評価委員の選出
学校経営計画、昨年度の学校運営連絡協議会の課題
本校の現状と課題等説明、意見交換

第2回 令和6年11月22日(金) 内部委員7名、協議委員4名

授業公開、これまでの教育活動に関する報告
協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の内容検討、協議

第3回 令和7年3月14日(金) 内部委員7名、協議委員4名

学校評価の報告及び学校運営に関する提言、協議
次年度に向けた方向性の確認

- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他

第1回 令和6年11月22日(金) 内部委員2名、協議委員2名

学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価結果の分析・考察
今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
今年度の学校評価の実施に向けた検討

第2回 令和7年3月14日(金) 内部委員2名、協議委員2名

アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理
評価報告書(原案)の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

- (1) 学校評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模

・12月 全校生徒	対象：192人	回収：130人	回収率：68%
・12月 保護者全員	対象：192人	回収：51人	回収率：27%
・12月 地域・住民	対象：142人	回収：10人	回収率：7%
・12月 教職員	対象：44人	回収：40人	回収率：91%

- (3) 主な評価項目

・学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、
ライフ・ワーク・バランスの推進

- (4) 評価結果の概要(校長や学校全般への意見・提言内容)

・学校全般への満足度は全般的に高いが、1年生の生徒に限っては、若干満足度が下がる傾向がみられた。まだ入学して間もないこともあり、今後の教育活動を通して上がっていくことを期待する。

・学習指導においては、習熟度別・少人数授業を多く実施していることや、杉工寺子屋による学習サポート体制によってきめ細やかな学習指導ができている。入学して良かった点にも「信頼できる先生がいる」を挙げた生徒が多く、学習指導を通して教員と生徒で良い関係が築けている。

・生活指導は、規律などに関する指導とスクールカウンセラーと連携した相談体制など含めて、全般的に生徒・保護者とも肯定的な意見が多かった。

・進路指導は、進路決定率100%を達成したことも含め、専門高校の特徴である手厚い進路指導に対して高い評価が得られた。今後も、継続して実施し、1年生の満足度の向上につなげていって欲しいとの意見があった。

・特別活動・部活動は、文化祭で本校の特色を生かした展示を充実させて欲しいとの意見が挙がった。また、部活動は入学者数の少なさから、特にチームスポーツなどの競技を実施することが困難な状況にあり、生徒からの不満も見受けられる。入学者数が増やし、部活動が活発に行えるように対策を行っていく必要もある。

・ライフ・ワーク・バランスの推進については、外部から見えづらいこともあり、評価としても分からないと回答されたものが多かった。ライフ・ワーク・バランスの推進に取り組むとともに外部への発信も行うことで、より意識を高める必要がある。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

・地域連携の強化や進路指導など本校の強みをもっとアピールし、本校の魅力を知ってもらい応募者の増加につなげていくことが必要である。

・文化祭は、保護者や地域の関心も高く、本校の特色を生かした魅力ある内容にして欲しい。

・部活動が活性化されるよう取組を進めてもらいたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

・学校運営についてのアンケート結果から、地域連携の強化や今年度からスタートした「IT・環境科」の魅力を積極的に発信していくことが必要であると認識できた。

・特別活動・部活動についてのアンケート結果から、文化祭や部活動の活性化を図る取組が重要であると認識できた。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

・生徒は、文化祭や部活動を活性化して欲しいと望んでいることが分かった。

・ライフ・ワーク・バランスの推進や体罰防止への取組など、学校内で教員が行っていることについて、その取組が保護者に見えていないことが分かった。

・より適正な評価を行うためには、協議委員に対して、もっと情報提供すべきである。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

・生徒・保護者に対して、機会あるたびに学校の教育方針を説明し理解を得る。

・生活指導については、今まで以上に保護者との連携を強化する。

・近隣小学校や福祉施設との交流事業など、地域との連携を強化する。

・学期ごとに校内研修会を実施する。

(2) 学習指導

・個に応じた学習指導を充実させ、誰ひとり取り残さない指導を強化する。

(3) 特別活動

・本校の魅力を発信できる文化祭を実施していく。

(4) 生活指導

・特別な支援を必要とする生徒への指導を充実させる。

(5) 進路指導

・IT・環境科の魅力を打ち出せるよう進学指導を充実させる。

(6) 健康・安全

・自転車乗車時のマナー（ヘルメットを含む）向上させる。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
3	3					3

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

【成果】

8 その他

・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。

・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。